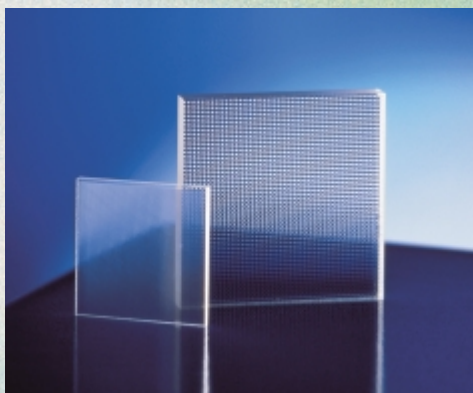


株主の皆様へ

第135期 中間報告書

平成12年4月1日～平成12年9月30日



ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第135期上半期（平成12年4月1日から平成12年9月30日まで）を経過いたしましたので、ここに当上半期の営業の概況をご報告申し上げます。



平成12年12月11日

日本板硝子株式会社

社長 **大原洋三**

営業の概況

当上半期における我が国経済は、IT（情報技術）関連を中心とした設備投資の拡大、個人消費の底打ちなど、景気の足取りは緩やかながら回復基調が見え始めてまいりました。

当社関連需要につきましては、情報電子関連需要は比較的好調でしたが、建築関連需要や自動車関連需要はほぼ横ばいで推移いたしました。

このような状況の下、当社は、光通信用マイクロレンズなど情報電子分野の拡販に努めるとともに、既存のガラス分野での徹底したコスト削減を推進してまいりました結果、売上高は1,044億8百万円、経常利益は53億86百万円、当中間利益は21億35百万円となりました。

当期の中間配当につきましては、業績は回復基調にありますが、下半期の見通し等を勘案し引き続き見送らせていただくことといたしました。株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、何とぞ事情ご賢察の上、ご了承賜りますようお願い申し上げます。なお、下半期は一層の業績向上に努め、期末には増配をさせていただく予定でございます。

部門別の状況は次のとおりであります。

板ガラス部門では、建築用につきましては、

複層ガラス「ペアマルチ」や真空ガラス「スペーシア」など高機能ガラスが売上数量を伸ばし、売上高は前年同期を若干上回りました。自動車用につきましては、国内自動車販売の若干の回復と輸出の増加により、売上高は前年同期を若干上回りました。この結果、板ガラス部門全体の売上高は、前年同期比5.1%増の508億50百万円となりました。

情報電子部門では、光製品の売上高は、北米の光通信用マイクロレンズが大幅に伸びましたため、前年同期を上回りました。ファインガラス製品の売上高は、携帯電話向け液晶需要の増加により前年同期を上回りました。ガラス磁気ディスクの売上高は、サーバー向け需要の増加により前年同期を上回りました。以上の結果、情報電子部門全体の売上高は、前年同期比43.9%増の279億42百万円となりました。

その他部門では、サッシなど建材製品の売上高は、ビル用の低迷から前年同期を下回りました。ガラス繊維製品の売上高は、電子部品向け需要の好調により前年同期を上回りました。以上の結果、その他部門全体の売上高は、前年同期比0.7%増の256億15百万円となりました。

下半期の見通しにつきましては、景気は緩やかな回復基調に入っているものと思われませんが、原油価格高騰の影響や米国景気減速の懸念など

マイナス要因もあり、本格回復へはまだ予断を許さない状況が続くと予想されます。当社関連の情報電子関連分野は好調に推移すると思われませんが、建築・自動車関連分野では、一進一退が続くものと考えられます。

当社といたしましては、このような状況に対応し、かつ中期計画「WIN21」の目標達成を目指して、成長分野へ経営資源を重点的に投入し拡大発展させてまいります。さらに、カンパニー制、執行役員制の活用など経営の効率化を進めるとともに、ITを活かした業務並びに事業構造の革新やISOの認証取得など環境保全にも努力いたします。事業分野別の取組といたしましては、建築・自動車分野では、徹底したコスト削減など構造変革を推進するとともに、高機能ガラスの拡販に努力いたします。情報電子分野では、光通信用マイクロレンズなどの需要拡大に対応した国内外の生産体制確立に努めるとともに、新商品の開発に注力いたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(注)この中間報告書では、百万円単位の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

平成12年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	426,649
流 動 資 産	119,377
現 金 及 び 預 金	16,768
受 取 手 形	13,990
売 掛 金	51,425
自 己 株 式	11
製 品 及 び 商 品	14,329
仕 掛 品	6,111
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	5,693
繰 延 税 金 資 産	876
そ の 他 の 流 動 資 産	13,784
貸 倒 引 当 金	3,613
固 定 資 産	307,272
有 形 固 定 資 産	91,842
建 物	35,585
構 築 物	2,517
機 械 装 置	32,040
車 輜 運 搬 具	106
工 具 器 具 備 品	2,404
土 地	13,291
建 設 仮 勘 定	5,895
無 形 固 定 資 産	2,934
施 設 利 用 権 等	2,934
投 資 等	212,496
投 資 有 価 証 券	146,629
子 会 社 株 式	59,683
長 期 貸 付 金	2,894
長 期 前 払 費 用	926
そ の 他 の 投 資 金	2,462
貸 倒 引 当 金	100
合 計	426,649

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	215,457
流動負債	89,538
支払手形	176
買掛金	35,369
短期借入金	30,543
未払金	6,111
未払法人税等	2,445
未払消費税等	70
未払費用	5,612
預り金	5,216
賞与引当金	2,567
その他の流動負債	1,425
固定負債	125,919
社債	51,822
長期借入金	11,588
退職給付引当金	12,226
役員退職慰労引当金	513
修繕引当金	11,862
繰延税金負債	36,177
その他の固定負債	1,728
資本の部	211,192
資本金	40,847
法定準備金	50,308
資本準備金	44,195
利益準備金	6,112
剰余金	62,956
特別償却準備金	36
固定資産圧縮特別勘定積立金	813
固定資産圧縮積立金	4,129
特別積立金	44,977
中間未処分利益	13,000
(中間利益)	(2,135)
その他有価証券評価差額金	57,080
合 計	426,649

損益計算書

自 平成12年4月1日
至 平成12年9月30日

経常損益の部		百万円
営業損益の部		
営業収益		104,408
売上高		104,408
営業費用		96,642
売上原価		80,946
販売費及び一般管理費		15,696
営業利益		7,765
営業外損益の部		
営業外収益		2,386
受取利息及び配当金		1,172
雑収益		1,213
営業外費用		4,764
支払利息及び割引料		1,156
雑損失		3,608
経常利益		5,386
特別損益の部		
特別利益		879
固定資産売却益		101
投資有価証券交換益		777
特別損失		1,930
固定資産除却損		582
関係会社整理損		421
退職給付引当金繰入額		927
税引前中間利益		4,335
法人税、住民税及び事業税		2,640
法人税等調整額		439
中間利益		2,135
前期繰越利益		10,864
中間未処分利益		13,000

貸借対照表及び損益計算書の注記事項

1. 貸借対照表の注記

- (1) 子会社に対する短期金銭債権..... 28,025百万円
子会社に対する短期金銭債務..... 16,948百万円
- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 166,887百万円
- (3) 重要な外貨建資産負債
投資有価証券.....16,149百万円
(120,482千米ドル、 55,749千リンギット 他)
子 会 社 株 式.....48,273百万円
(288,280千米ドル、 68,000千シンガポールドル 他)
貸 付 金..... 79百万円
(741千米ドル)
- (4) 担保に供している資産
有形固定資産..... 89百万円
投資有価証券.....3百万円
- (5) 保証債務.....40,104百万円
- (6) 役員退職慰労引当金は商法第287条ノ2の引当金である。
- (7) 修繕引当金は商法第287条ノ2の引当金である。
- (8) 1株当たりの中間利益..... 4円86銭

2. 損益計算書の注記

- (1) 子会社に対する売上高.....29,032百万円
- (2) 子会社からの仕入高.....29,315百万円
- (3) 子会社との営業取引以外の取引高 811百万円

(ご参考)連結貸借対照表

平成12年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	541,650
流 動 資 産	187,034
現 金 及 び 預 金	51,719
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	77,587
棚 卸 資 産	43,480
繰 延 税 金 資 産	1,264
そ の 他 の 流 動 資 産	15,629
貸 倒 引 当 金	2,647
固 定 資 産	354,616
有 形 固 定 資 産	155,889
建 物 及 び 構 築 物	56,550
機 械 装 置 及 び 車 輛 運 搬 具	61,972
工 具 器 具 備 品	4,255
土 地	24,174
建 設 仮 勘 定	8,936
無 形 固 定 資 産	7,828
連 結 調 整 勘 定	410
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	7,418
投 資 そ の 他 の 資 産	190,897
投 資 有 価 証 券	174,837
長 期 貸 付 金	3,925
長 期 前 払 費 用	1,216
繰 延 税 金 資 産	4,349
投 資 そ の 他 の 資 産	7,006
貸 倒 引 当 金	437
合 計	541,650

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	317,617
流動負債	146,520
支払手形及び買掛金	40,680
短期借入金	70,887
未払金	7,025
未払法人税等	4,424
未払消費税等	447
未払費用	11,010
預り金	5,583
賞与引当金	3,778
繰延税金負債	28
その他の流動負債	2,653
固定負債	171,097
社債	51,822
長期借入金	49,814
退職給付引当金	15,946
役員退職慰労引当金	713
修繕引当金	12,446
繰延税金負債	37,383
その他の固定負債	2,969
少数株主持分	8,875
資本の部	215,157
資本金	40,847
資本準備金	44,195
連結剰余金	87,392
自己株式	11
その他有価証券評価差額金	55,702
為替換算調整勘定	12,969
合 計	541,650

(ご参考)連結損益計算書

自 平成12年4月1日
至 平成12年9月30日

経常損益の部	
営業損益の部	百万円
営業収益	150,996
売上高	150,996
営業費用	140,130
売上原価	110,056
販売費及び一般管理費	30,073
営業利益	10,865
営業外損益の部	
営業外収益	6,390
受取利息及び配当金	1,738
持分法投資利益	1,702
雑収益	2,948
営業外費用	5,155
支払利息及び割引料	2,449
雑損失	2,705
経常利益	12,100
特別損益の部	
特別利益	15,707
固定資産売却益	600
投資有価証券交換益	14,652
その他	454
特別損失	3,290
固定資産除却損	605
関係会社整理損	219
退職給付引当金繰入額	2,005
その他	460
税金等調整前中間純利益	24,517
法人税、住民税及び事業税	4,741
法人税等調整額	757
少数株主損益(加算)	205
中間純利益	20,328

会社の概要

平成12年9月30日現在

設立	大正7年11月22日
資本金	40,847,405,370円
発行済株式総数	439,675,332株
1単位の株式の数	1,000株
株主数	28,269名

営業品目

(板ガラス部門)

フロート板ガラス	網入線入磨板ガラス
熱線吸収板ガラス	熱線反射ガラス
高性能熱線反射ガラス	強化ガラス
倍強度ガラス	合わせガラス
複層ガラス	真空ガラス
防火ガラス	型板ガラス
網入線入型板ガラス	鏡
装飾ガラス等	

(情報電子部門)

- 光製品(セルフオックレンズアレイ、セルフオックマイクロレンズ、光部品等)
- ファインガラス製品(超薄板、透明電導ガラス等)
- 産業用ガラス製品
- LCD製品
- ガラス磁気ディスク等

(その他部門)

- サッシ及び建材
- 店装材
- ガラス繊維及び関連製品等

本店移転についてのお知らせ

当社は、本店（大阪府中央区道修町3丁目5番11号）を下記のとおり移転することを決議いたしましたので、お知らせ申し上げます。

記

移転時期 平成12年12月14日（予定）

移 転 先 大阪府中央区北浜四丁目7番28号
（住友ビル2号館）

以 上

取締役及び監査役

平成12年11月17日現在

日本板硝子株式会社

社 長	出 原 洋 三
専務取締役	庄 野 晋 吉
専務取締役	野 原 俊 夫
専務取締役	阿 部 友 昭
常務取締役	真 鍋 征一郎
常務取締役	木 戸 雄 二
常務取締役	小 坂 元
取 締 役	永 井 勲
取 締 役	藤 本 勝 司
取 締 役	加々美 信 光
常勤監査役	川 村 隆 男
常勤監査役	永 井 輝 雄
監 査 役	武 内 正 康
監 査 役	大 井 尚 一

TOPICS

トピックス



英国ピルキントン社への出資

当社は、当社保有のピルキントン社の子会社株式とピルキントン社の新株式を交換し、同社の株主（持株比率約10%）になりました。

ピルキントン社は、フロート技術を開発した英国の世界最大手の板ガラスメーカーです。

この株式交換により、当社は同社からの配当収入等による収益の向上、安定化を図るとともに、同社の世界21カ国の自動車ガラス生産拠点を活用し、グローバルサプライヤーとしてカーメーカーの海外展開に対応することができます。



自動車用撥水性フロントガラスの開発

撥水性ガラスは、ガラス表面に特殊な撥水剤をコーティングしたもので、水滴を走行中の風圧ではじいてこぼり落とすことから、雨天時に前方の良好な視界を確保することができます。

既にドアガラスでは実用化されていますが、ワイパーに対する耐摩耗性と水滴のはじき具合を高めることにより、フロントガラスにも使用できるようになりました。

この撥水性フロントガラスは通常の使い方をすれば、3年程度効果が持続します。

株主メモ

決 算 期
毎年 3月31日

定時株主総会
毎年 6月

株主確定基準日
定時株主総会・利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
そのほか必要あるときはあらかじめ
公告した一定の日

名義書換代理人
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所
住友信託銀行株式会社
証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

(郵便物送付・電話お問合せ先)
住友信託銀行株式会社
証券代行部
東京都府中市日鋼町1番10
〒183 8701

電話 東京(042)351 2211
大阪(06)6833 4700

同 取 次 所
住友信託銀行株式会社
本店及び全国各支店

公告掲載新聞名
日本経済新聞

会 計 監 査 人
神戸市中央区明石町31番地の1 住友生命神戸ビル
監査法人太田昭和センチュリー

表紙の写真：平板マイクロレンズ

板状のガラスの中に微小レンズを集積したもので、光スイッチなど光通信用モジュールへの採用が期待されています。

◎ NIPPON SHEET GLASS CO., LTD.